

松井幸生さん
株式会社善助商店社長
Matsui Yukio

金襴織物・裂地の製造卸商を営む。菅田屋勤兵衛から数えて13代目。京人形商工業協同組合副理事長。平成12年伝統的工芸品産業審議会臨時委員任命。翌年、伝統的工芸品産業の奨励賞を受賞した。

今日の先生



日本人形の衣裳にとことん迫る本企画。人形の衣裳に使われている文様や生地はもちろん、着せ方についても詳しく解説していきます。業界のスペシャリストを講師に迎え、衣裳の基礎から応用まで教えていただきます。知識の習得や再確認、セールストークにお役立てください！
第6回は女性の髪型についてです。

——今回は女性の髪型について調べました。以前から気になってきたことで、女雛を見ると髪型が何種類かある気がするのです。この業界に入り、「大垂髪（おすべらかし）」という言葉をはじめて知りました。この髪型は、雛人形の髪型の大半を占めていますよね。でも、中には髪を垂らしているだけのお人形もあります。

松井さん 現代では流行のファッションや好み、気分転換などでヘアスタイルを変える女性がほとんどだと思いますが、昔は違いました。平安時代、女性が髪型を変えることは、年齢や役職による決まりが厳密に定められていたのです。その辺りを知られるとよいですね。また女性に限らず、男性に

ついても調べてみると面白いかもしれません。

——男性の髪型ですか。

松井さん 髪型ではなく、冠と烏帽子です。

——男雛が頭に付けている黒く透けた素材の帽子のことですか？

松井さん そうです。以前、雑談でお話したことがあります。平安時代の男性にとって帽子は下着のようなもの。頭に被りものをつけるのは当然で、無帽であることは裸で過ごすようなことで恥とされました。

——帽子はパンツのような存在だったんですね！驚きです。

松井さん 人前で頭頂部をさらすことは恥ずかしいことでした。烏帽子を取られた人は、頭を抑えて

隠れようとする様子が分かる絵が残っているほどです。

——本当下着のような存在だったのですね。

それでは資料をもとに、女性の髪型についてまとめていきますので、間違っている部分があれば、ご指摘ください。先生、今回もよろしくお願いいたします。

女性の理髪について

平安時代中期以来、日本の女性の髪型はストリートな垂髪（おすべらかし）が基本で、宮中でも例外を除いて垂髪がメインだった。江戸時代中期、流行に敏感な遊女たちの間で流行ったのが「灯籠髪」という髪型。それが江戸後期に京都の町で流行し、この髪型をした女性が町中に

溢れた。灯籠髪はサイドを大きく膨らませ後ろに流す形が特徴的。これが微妙に変化して大垂髪（おすべらかし）の形になる。明治期になり近代の皇族や女官が用いるようになった。垂髪（おすべらかし）って何？

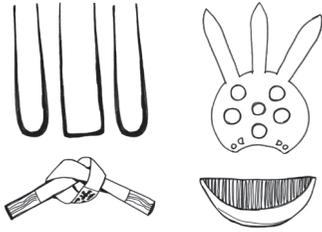
ストリートロングヘア。自然に髪を垂らした「垂髪」と呼ばれる垂れ髪（おすべらかし）は日本古来の髪型。平安時代、長く豊かな黒髪は美女の第一条件であった。長い髪は身分の高さを表し、高貴な女性は床につくほど長い髪を後方へ垂れ下げて美しさを誇った。

装着着用の際は、江戸中期までは垂髪で、儀式のときは頭頂部に釵子（かんざし）・額櫛（おごもり）を用いた。

大垂髪って何？

現在は天皇陛下下の即位式で皇后

髪上具



右上から時計回りに
平額、額櫛、絵元結、釵子
(イラスト：編集室作成)

陛下などの皇族が大垂髪をする他、衣裳着の雛人形で見ることが出来る。一般人はしない髪型。形は次の通りだ。

大垂髪を前から見たとき、サイド大きなふくらみがある。これは仙花紙という厚紙を黒く塗ったハート型の型紙(つとうらと呼ぶ)を中心に入れて、鬢付け油をつけた髪をその型紙に貼り付けて、杓子のように鬢を大きく左右に張り出し、髪を載せて安定させる。

後ろの髪は「長髷」をつける。いわゆるつけ毛。髪が結ばれるのは4カ所。下の画像にある大垂髪の後ろ姿を見ると分かるように、一番上から長髷を入れて絵元結で結ぶ。絵元結は紅色と金色があり、紅色は28歳まで、それ以降は金色を用いる。二番目の紅の水

引は「紅」と呼ばれる。そして最後は2本の白い和紙を使って結ぶ「小髷先」となる。

絵元結は結び切りで、他すべては片鉤(結び目の片側だけに輪を結ぶこと)にして結ぶ。

大垂髪いろいろ

大垂髪も時代によって形が異なる。簡潔に解説する。

平安形大垂髪

この時代、鬢批のある垂髪を大垂髪と呼んだ。皇后から女官、堂上家の婦女、神職の妻女、巫女、武家の女子、遊女に至るまで、幅広く流行したのが平安形大垂髪。腰まで長く伸びた黒髪は上流公家の子女であったと言われている。

松井さん「姫カット」と言うイメージでできるかもしれません。

室町形大垂髪

平安時代と江戸後期で大垂髪は大きく変化。室町期には大半が髷を使って背中できくつも結び目を作るようになった。江戸期における有職雛は、平安期から有職と衣紋の伝統を受け継ぐ高倉家の「高倉雛」を模範としていて宮廷女官はこれにならったとされる。

江戸形大垂髪

江戸期の大垂髪はそれまでの形

とは大きく異なり、結髪と垂髪を併用した髪型となった。江戸後期の末期に完成された髪型で雛人形にもよく見られる。江戸後期の宮廷は鬢を誇張して張り出すタイプ。江戸形大垂髪は宮中において高位の女官が正装の際に結う。通称「お大」。形は宮中の結髪の中で一番大きい仕上がりであり髷が

装である五衣唐衣裳を着用し、髪の際に「丸髷(または丸かぶ)」という左記の丸い髷を頭の前方につけて「平額」「釵子」「櫛」などをつけて留まりやすくしてある。

木目込人形の髪型

木目込人形の女雛の髪型は主に「下げ髪の鬢批」である。鬢批は通過儀礼の一つで、16歳頃に家族や婚約者の手で、両頬の横の毛を切り揃える。成人または既婚や婚約のしるしとされる(左画像)。

松井さん「鬢付け油」は今のヘアワックス的なものです。ネットとか何かで調べてみてください。はい。今号もありがとうございまして。イラストも褒めていただき恐縮です。次回も頑張ります。



左) 大垂髪後ろ姿、右) 大垂髪正面から。大垂髪は宮中の結髪中、一番大きい。略式は中垂髪。通称はお中



木目込人形に多いのが垂髪
撮影協力・画像提供 / 株式会社吉徳、株式会社真多呂人形

参考文献

- ・大原製恵子著『黒髪文化史』(築地書館、1988年)
- ・八條忠基著『素晴らしい装束の世界』(誠文堂新光社、2005年)
- ・鈴木敬三編『有職故実大辞典』(柗吉川弘文館、1996年)

※本連載は隔月連載です。第7回は2022年12月号に掲載します